

働<DB

外部システム連携機能 設定手順書



目次

0	はじめに.....	2
---	-----------	---

働<DB のレコード情報を CSV データで送る場合

1	DB 設定権限／システム連携権限設定.....	3
2	システム連携設定	3
3	メニュー設定.....	4
4	システム連携実行.....	5
5	状況確認.....	6

働<DB のレコード情報を使って API 実行する場合

6	DB 設定権限設定.....	7
7	自動処理設定（http 送信パーツ設定）	7
8	メニュー設定.....	9
9	自動処理実行.....	9
10	状況確認.....	10

0 はじめに

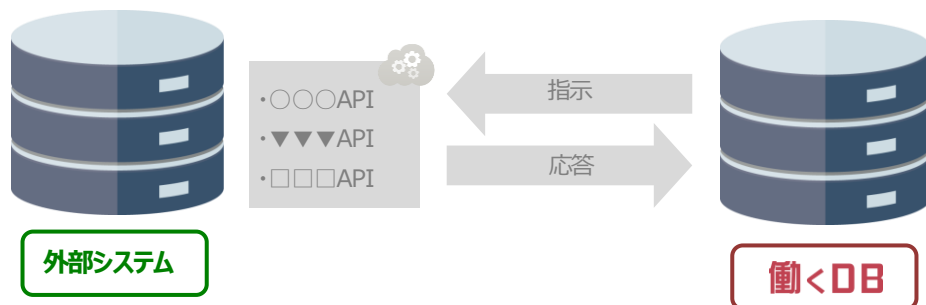
■本マニュアルについて

本マニュアルは、外部システムの API を使用して API 連携(*1)する場合の設定方法をまとめたものとなります。

※ 本機能をご利用頂くためにはオプション申込み(有償)が必要となります。

(*1) 働くDB から外部システムに対してデータ連携を行うことができます。

働くDB のレコード情報を CSV データで送る方法と、働くDB のレコード情報を使って API 実行する方法がございます。



働くDB のレコード情報を CSV データで送る場合の流れ

1. DB 設定権限／システム連携権限設定

システム連携設定を行うユーザーに「DB 設定」「システム連携」権限を付与します。

2. システム連携設定

システム連携に必要な情報（連携先の URL など）を設定します。

3. メニュー設定

レコード一覧タイプのメニューへ、2. のシステム連携設定を割当てます。

4. システム連携実行

システム連携を実行します。

5. 状況確認

システム連携の実行状況、実行結果を確認します。

働くDB のレコード情報を使って API 実行する場合の流れ

6. DB 設定権限設定

自動処理設定を行うユーザーに「DB 設定」権限を付与します。

7. 自動処理設定（http 送信パーツ設定）

http 送信パーツを使った自動処理を作成し、必要な情報（連携先の URL など）を設定します。

8. メニュー設定

レコード一覧タイプのメニューへ、2. の自動処理設定を割当てます。

9. 自動処理実行

自動処理を実行します。

10. 状況確認

http 送信パーツの実行結果を確認します。

1 DB 設定権限／システム連携権限設定

これから働<DB のレコード情報を CSV データで送る場合の設定方法をご案内します。
システム連携の設定を行うユーザに、「DB 設定」「システム連携」権限を付与します。
特定ユーザのみに権限を付与することで、設定担当者を限定することができます。
※システム連携の『実行』には、上記権限は不要です。

【設定方法】

▼設定箇所：管理者設定 > 権限設定 > 全体権限一覧

管理者設定

データ設定 ユーザ設定 **権限設定**

権限テンプレート設定
権限テンプレートの追加/編集/削除を行います

全体権限一覧
システム内の機能に関する権限を設定します。

① 右上の[管理者設定]ボタンをクリック後、権限設定タブ内の[全体権限一覧]ボタンをクリックします。

	システム設定	ユーザ設定	権限付与	権限テンプレート設定	ログ閲覧
〇〇太郎	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
山田太郎	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ユーザ名 〇〇太郎

所属ユーザグループ

【全選択】 【全解除】

☒システム設定
☒権限付与
☒ログ閲覧
☒メールボックス設定
☒DB設定
☒システムフォルダ管理
☒インポート状況確認
☒テンプレート出力・読込

☒ユーザ設定
☒権限テンプレート設定
☒ログ出力
☒DBグループ設定
☒トップフォルダ設定
☒インポート実行
☒トップページ設定
☒システム連携

確定 リセット

② 対象のユーザ名をクリックします。

③ 「DB 設定」、「システム連携」を選択し、「確定」ボタンをクリックします。

2 システム連携設定

システム連携に必要な情報（連携先の URL など）を設定します。

【設定方法】

▼設定箇所：DB 設定 > システム連携 > システム連携設定

顧客マスタ：DB設定

基本設定 表示設定 機能設定 **システム連携**

システム連携設定
HTTP通信による他システムへのデータ連携の設定をします。

① 左パネルよりDB 設定画面を開き、システム連携タブ内の[システム連携設定]ボタンをクリックします。

システム連携設定一覧

+新規追加

② [新規追加]ボタンをクリックします。

システム連携設定

システム連携設定一覧に戻る

システム連携名*

URL*

※にチェックをつけたVALUEは暗号化して保存されます。暗号情報などのデータは暗号化を推奨します。

HTTPヘッダ

KEY	VALUE	
		<input type="checkbox"/> *

追加

HTTPボディ形式

form-data

JSON name: *

※にチェックをつけたVALUEは暗号化して保存されます。暗号情報などのデータは暗号化を推奨します。

リクエストパラメータ

KEY	VALUE	
		<input type="checkbox"/> *

追加

連携データ(CSV)のname*

連携データ(CSV)のヘッダ

☐ 1行目にヘッダ (項目名) を付ける

レポートメール

☐ レポートメールを送信する

送信先: [実行時] *

☐ エラー発生時のみ通知する

確定 リセット

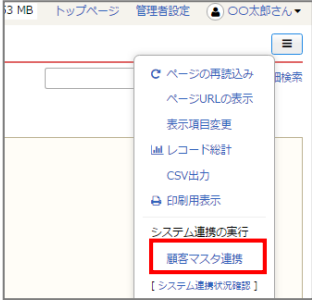
③ 必要な情報を設定し、「確定」ボタンをクリックします。

※連携先のシステムに応じて設定してください。

参照

詳細は【設定項目説明】をご参照下さい。

【設定項目説明】


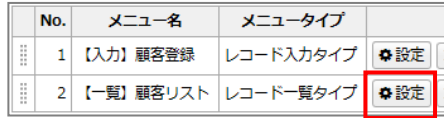
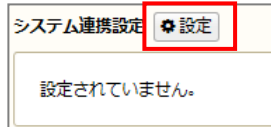
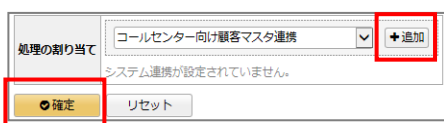
名称	説明
システム連携名	レコード一覧画面に表示される、システム連携名を入力します。 
URL	連携先となる外部システムの URL を入力します。
HTTP ヘッダ	外部システムの API 仕様に応じて KEY 列と VALUE 列を入力します。
HTTP ボディ形式	『form-data』または『JSON』を選択します。 『JSON』を選択する場合は、「name」も合わせて入力します。
リクエストパラメータ	外部システムの API 仕様に応じて KEY 列と VALUE 列を入力します。
連携データ (CSV) の name	連携データの名称を入力します。
連携データ (CSV) のヘッダ	連携データの 1 行目にヘッダ (項目名) を付けるかを選択します。
レポートメール	システム連携後に「働く DB」よりレポートメールを送信するかを選択します。 ※送信先は、「実行者」または「管理者（「働く DB」側の管理者）」より選択することができます。 ※エラー発生時のみレポートメールを送信することもできます。

3 メニュー設定

レコード一覧タイプのメニューへ、『2 システム連携設定』を割当てます。

【メニュー設定 設定方法】

▼設定箇所: DB 設定 >> 基本設定 >> メニュー設定

	① 左パネルよりDB 設定画面を開き、基本設定タブ内の[メニュー設定]ボタンをクリックします。
	② 対象メニューの[設定]ボタンをクリックします。 未設定の場合はメニューを追加してから行って下さい。
	③ システム連携設定の右横の[設定]ボタンをクリックします。
	④ 処理を選択し、[追加]ボタンをクリック後、[確定]ボタンをクリックします。


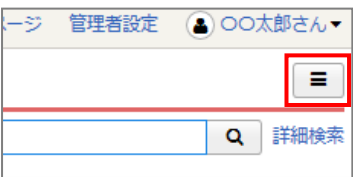
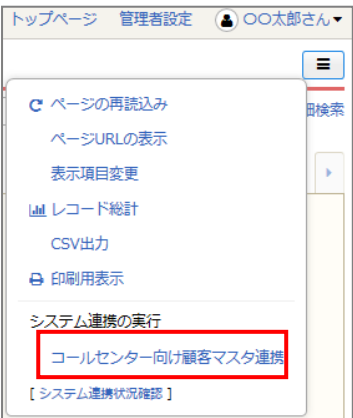
設定に関する説明は以上となります。
以降は、システム連携実行以降の流れの説明となります。

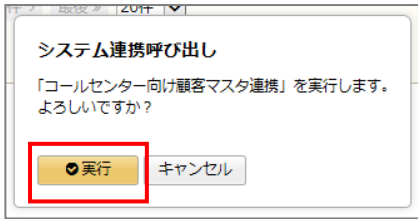
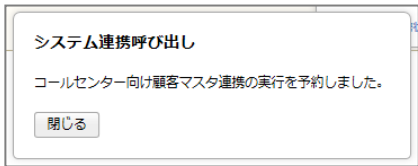
4 システム連携実行

システム連携を実行します。

【システム連携 実行方法】

▼実行個所：メニュー(レコード一覧タイプ)

	<p>① 左パネルより、システム連携用のメニューを選択します。</p> <p>※『3 メニュー設定』を行ったメニューを選択してください。</p>
	<p>② 画面右上の[サブメニュー]ボタンをクリックします。</p>
	<p>③ システム連携名称をクリックします。</p>

	<p>④ [実行]ボタンをクリックします。</p>
	<p>⑤ 外部システムに対して、働く DB のレコード情報が CSV データで連携されます。</p> <p>※連携対象は、絞込みや詳細検索等を用いて抽出された全レコードになります。</p>

補足

連携可能な CSV データについて

■容量について

レコード一覧画面から CSV 出力した際のファイル容量が、下記以内に収まる場合のみ、システム連携が可能となります。

※いずれか一方でも上限を超えると、エラーとなりますのでご注意ください。

項目	上限値
件数	10,000 件
サイズ	3MB

■項目の並び順について

外部システムで取込可能な項目順が指定されている場合は、表示順を合わせてからシステム連携を実行してください。

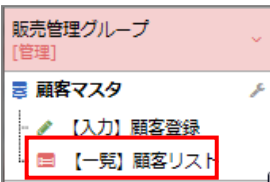
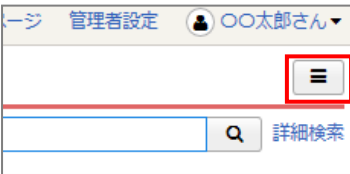
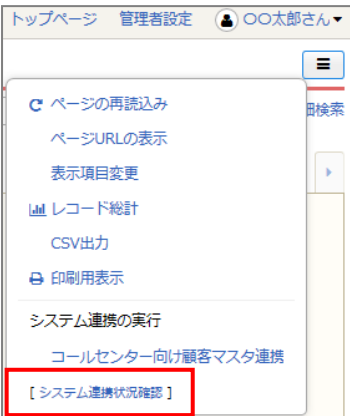
※表示順を合わせたシステム連携専用のメニューを用意しておくことをお勧めいたします。

5 状況確認

システム連携の実行状況、実行結果を確認します。

【実行状況確認方法】

▼実行箇所：メニュー(レコード一覧タイプ)

	<p>① 左パネルより、システム連携を行ったレコード一覧タイプのメニューを選択します。</p>
	<p>② 画面右上の[サブメニュー]ボタンをクリックします。</p>
	<p>③ [システム連携状況確認] ボタンをクリックします。</p>

システム連携状況確認

レコード一覧画面へ移動

🔄 再読込

2016/10/26 18:17:04

◀ 最初 < 前の50件 次の50件 > 最後 ▶

実行日時	状況	HTTP ステータス	件数	実行結果	
2016/10/26 18:16	完了	400	3	参照	販売管理グルー
2016/10/26 18:16	完了	200	3	参照	販売管理グルー

④ システム連携状況確認画面が表示されます。

参照

詳細は、【表示内容説明】をご参照下さい。

④ システム連携状況確認画面が表示されます。

参照

詳細は、【表示内容説明】をご参照下さい。

【表示内容説明】

システム連携状況確認

レコード一覧画面へ移動

再読込

2016/10/26 18:18:04 (読込時間)

◀ 最初

< 前の50件

次の50件 >

最後 ▶

実行日時	状況	HTTPステータス	件数	実行結果	対象DB	システム連携名	実行者
2016/10/26 18:18	完了	200	3	参照	販売管理グループ：顧客マスタ	コールセンター向け顧客マスタ連携	〇〇太郎
2016/10/26 18:17	完了	200	3	参照	販売管理グループ：顧客マスタ	コールセンター向け顧客マスタ連携	〇〇太郎
2016/10/26 18:16	完了	400	3	参照	販売管理グループ：顧客マスタ	コールセンター向け顧客マスタ連携	〇〇太郎

実行結果の詳細、また、システム連携実行時に指定した絞り込み、検索条件の内容を確認することができます。

外部システムからの応答で返されたコードです。

完了 …働くDB で外部システム連携処理が完了したことを表します。
 強制終了 …働くDB で外部システム連携処理が何らかの理由で失敗したことを表します。詳細は「実行結果」列の[参照]ボタンよりご確認ください。

働くDB のレコード情報を CSV データで送る場合の手順は以上になります。
 次ページから、働くDB のレコード情報を使って API 実行する場合の手順を説明します。

6 DB 設定権限設定

これから働<DB のレコード情報を使って API 実行する場合の設定方法をご案内します。
設定を行うユーザに、「DB 設定」権限を付与します。
特定ユーザのみに権限を付与することで、設定担当者を限定することができます。
※自動処理の『実行』には、上記権限は不要です。

【設定方法】

▼設定箇所: 管理者設定 > 権限設定 > 全体権限一覧

管理者設定

データ設定

ユーザ設定

権限設定

権限テンプレート設定

権限テンプレートの追加/編集/削除を行います

全体権限一覧

システム内の機能に関する権限を設定します。

① 右上の[管理者設定]ボタンをクリック後、権限設定タブ内の[全体権限一覧]ボタンをクリックします。

	システム設定	ユーザ設定	権限付与	権限テンプレート設定	ログ閲覧
〇〇太郎	○	○	○	○	○

ユーザ名

〇〇太郎

所属ユーザグループ

【全選択】

【全解除】

☒システム設定
 ☒権限付与
 ☒ログ閲覧
 ☒メールボックス設定
 ☒システムフォルダ管理
 ☒インポート状況確認
 ☒テンプレート出力・読込

☒ユーザ設定
 ☒権限テンプレート設定
 ☒ログ出力
 ☒DBグループ設定
 ☒トップフォルダ設定
 ☒インポート実行
 ☒トップページ設定
 ☒システム連携

確定
 リセット

② 対象のユーザ名をクリックします。

③ 「DB 設定」を選択し、[確定]ボタンをクリックします。

7 自動処理設定(http 送信パーツ設定)

http 送信パーツを使った自動処理を作成し、システム連携に必要な情報（連携先 URL、パラメータ値など）を設定します。

【設定方法】

▼設定箇所: DB 設定 > 機能設定 > 自動処理設定

顧客マスタ : DB設定

基本設定

表示設定

機能設定

集計設定

レコードの集計処理を設定します。

通知メール設定

レコード更新時の通知メールを設定します。

自動処理設定

自動処理の設定、一括実行ができます。

① 左パネルよりDB 設定画面を開き、機能設定タブ内の[自動処理設定]ボタンをクリックします。

自動処理設定一覧

+自動処理新規追加

② [自動処理新規追加]ボタンをクリックします。

自動処理名*

コメント

実行単位

●レコード単位

選択したレコード1件に対して自動処理を行います。

○期間単位

一覧画面では選択したレコードの範囲全てに対して自動処理を実行します。閲覧画面ではメニューの設定により個別の範囲に対して自動処理を実行することが出来ます。

確認画面

☒ボタン押下時に実行確認画面を表示する
 ☒一括処理に使用する場合は常に確認画面が表示されます
 ☒実行完了画面を表示する

レポートメール等の詳細設定

レポートメール等の詳細設定を表示

確定
 リセット

③ 自動処理名を入力し[確定]ボタンをクリックします。

※レコード一覧画面に表示されるボタン名になります。

<p>自動処理パーツ設定 設定</p> <p>自動処理パーツは未設定です。</p>	<p>④ 自動処理パーツ設定の右横にある[設定]ボタンをクリックします。</p>
<p>自動処理パーツが未設定です。以下から自動処理パーツを登録してください。</p> <p>+ 自動処理パーツを登録する</p>	<p>⑤ [自動処理パーツを登録する]ボタンをクリックします。</p>
<p>自動処理パーツ名 *</p> <p>コメント</p> <p>処理内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> レコード登録 <input type="radio"/> レコード更新 <input type="radio"/> レコード承認 <input type="radio"/> レコード検索 <input type="radio"/> レコード削除 <input type="radio"/> ファイル生成 <input type="radio"/> メール送信 <input checked="" type="radio"/> http送信 <input type="radio"/> 条件分岐 <input type="radio"/> 処理キャンセル <p>確定 リセット</p>	<p>⑥ 自動処理パーツ名を入力し、処理内容では『http 送信』を選んで[確定]ボタンをクリックします。</p>
<p>1 SMS配信 http送信</p> <p>名前変更 詳細設定 コピー 直前に追加 削除</p> <p>+ パーツ登録</p>	<p>⑦ 追加されたパーツの[詳細設定]ボタンをクリックします。</p>

<p>自動処理パーツ詳細設定 (SMS配信)</p> <p>自動処理パーツ設定 - 詳細設定</p> <p>URL *</p> <p>メソッド * <input checked="" type="radio"/> GET <input type="radio"/> POST</p> <p>HTTPヘッダ</p> <p>リクエストパラメータ</p> <p>確定 リセット</p>	<p>⑧ 必要な情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。</p> <p>※連携先のシステムに応じて設定してください。</p> <p>参照</p> <p>詳細は【設定項目説明】をご参照下さい。</p>
--	--

【設定項目説明】


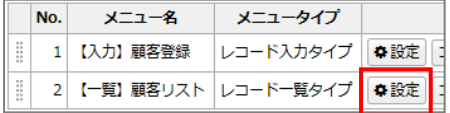
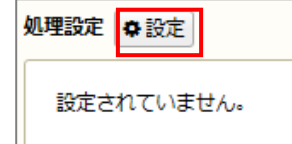
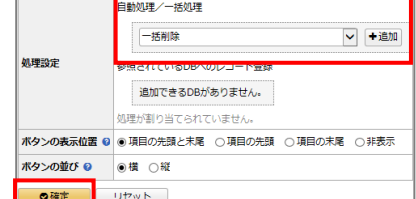
名称	説明
URL	連携先となる外部システムの URL を入力します。
メソッド	『GET』または『POST』を選びます。 『POST』を選択する場合は、2 行下に追加される「HTTP ボディ形式」も合わせて選択します。
HTTP ヘッダ	外部システムの API 仕様にに応じて KEY 列と VALUE 列を入力します。
リクエストパラメータ	外部システムの API 仕様にに応じて KEY 列と VALUE 列を入力します。

8 メニュー設定

レコード一覧タイプのメニューへ『7 自動処理設定（http 送信パーツ設定）』を割当てます。

【設定方法】

▼設定箇所：DB 設定 ≫ 基本設定 ≫ メニュー設定

	<p>① 左パネルよりDB 設定画面を開き、基本設定タブ内の[メニュー設定]ボタンをクリックします。</p>
	<p>② 対象メニューの[設定]ボタンをクリックします。</p> <p>未設定の場合はメニューを追加してから行って下さい。</p>
	<p>③ 処理設定の右横の[設定]ボタンをクリックします。</p>
	<p>④ 自動処理／一括処理で作成した自動処理名を選択し、[追加]ボタンをクリック後、[確定]ボタンをクリックします。</p>

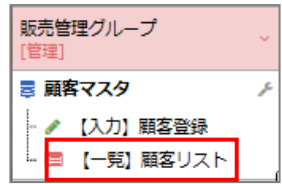

設定に関する説明は以上となります。
以降は、自動処理実行の流れの説明となります。

9 自動処理実行

http 送信パーツを含む自動処理を実行します。

【実行方法】

▼実行箇所：メニュー(レコード一覧タイプ)

	<p>① 左パネルより、自動処理実行用のメニューを選択します。</p> <p>※『8メニュー設定』を行ったメニューを選択してください。</p>
	<p>② [処理]列にあるボタンから、または左端にチェックを入れプルダウンから自動処理実行します。</p> <p>外部システムに対して、働く DB のレコード情報を使った API 実行が行われます。</p>

10 状況確認

http 送信パーツの実行結果を確認します。

【実行状況確認方法】

▼確認箇所: 管理者設定 >> 権限設定 >> 全体権限一覧

<p>管理者設定</p> <p>データ設定 ユーザ設定 権限設定 トップページ設定 システム設定 メンテナンス機能</p> <p>テンプレート出力 設定をテンプレートファイルとしてダウンロードできます。</p> <p>テンプレート読み込み テンプレートファイルの読み込みができます。</p> <p>システムフォルダ システムフォルダに保存されたファイルを確認できます。</p> <p>ログ一覧 操作ログを確認できます。</p>	<p>① 右上の[管理者設定]ボタンをクリック後、メンテナンス機能タブ内の[ログ一覧]ボタンをクリックします。</p>								
<p>ログ一覧</p> <p>日付: 2016年 10月 7日 0時 0分</p> <p>作業員: ---</p> <p>DB・フォルダ名: </p> <p>操作: 自動処理によるHTTP送信</p> <p>対象: </p> <p>詳細: </p> <p>Q 検索 CSV出力</p>	<p>② 操作欄で「自動処理によるHTTP 送信」を選んで[検索]ボタンをクリックします。</p>								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>フォルダ名</th> <th>操作</th> <th>対象名、またはレコードID</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>自動処理によるHTTP送信</td> <td>HTTP送信</td> <td>参照</td> </tr> </tbody> </table>	フォルダ名	操作	対象名、またはレコードID			自動処理によるHTTP送信	HTTP送信	参照	<p>③ 右端にある[参照]ボタンをクリックします。</p>
フォルダ名	操作	対象名、またはレコードID							
	自動処理によるHTTP送信	HTTP送信	参照						

ログ閲覧	
日付	2016/11/07 14:38:39
作業員	
DB・フォルダ名	
操作	自動処理によるHTTP送信
対象名、またはレコードID	HTTP送信
接続元IPアドレス	
【自動処理名 SMS : 配信】	
詳細情報	
URL	
メソッド	POST
HTTPボディ	form-data
リクエストパラメータ	
HTTPステータス	200
レスポンスヘッダ	
レスポンスボディ	

④ ログ閲覧画面が表示されます。

参照

詳細は【表示内容説明】をご参照下さい。

【表示内容説明】

日付	2016/11/07 14:38:39
作業員	
DB・フォルダ名	
操作	自動処理によるHTTP送信
対象名、またはレコードID	HTTP送信
接続元IPアドレス	
【自動処理名 SMS : 配信】	
詳細情報	
URL	
メソッド	POST
HTTPボディ	form-data
リクエストパラメータ	
HTTPステータス	200
レスポンスヘッダ	
レスポンスボディ	

外部システムからの応答で返されたコードになります。

その他外部システムからの応答内容になります。

レコード情報を使って API 実行する場合の手順は以上になります。
本マニュアルの説明は以上になります。